

FUSO

magazine

NO.79

2022 07/08
Jul. Aug.



[FUSOマニア]

FUSOブランド 誕生から90年 日本と世界の輸送を支えて

[Our Philosophy]

株式会社エスラインギフ 日本の音100選を行く

[キャビンからの風景]

- ・活躍するeCANTER ドライバーに聞く
- ・物流DX 問われる経営者の覚悟と実行力
- ・eCANTERが行く



CONTENTS

- 3 Our Philosophy | 私たちの哲学
株式会社エスラインギフ
 - 6 キャビンからの風景
日本の音100選を行く
 - 10 活躍するeCanter ドライバーに聞く
 - 12 [FUSOマニア]
FUSOブランド誕生から90年
 - 14 トレンドウオッチ
物流DX 問われる経営者の覚悟と実行力
 - 15 大型トラックINOMAT-II搭載車
「点検整備」の確実な実施のお願い
 - 16 eCanterが行く
東京ゲートブリッジを疾走
 - 17 FUSOマイレージリース お客様インタビュー
 - 18 Good for 遊 きょうは何の日
 - 19 Coffee Break & プレゼント
-



FUSO

magazine

| NO.79 | 2022 07/08 Jul,Aug.

表紙Photo : eCanter

©FUSO magazine 本誌掲載の
記事、写真、イラスト等の無断複写、
転載を禁じます。



迅速・親切・確実＋環境に優しい物流を追求。

グループ企業の総合力を結集し、お客様に選ばれる企業へ



OUR PHILOSOPHY

— 私たちの哲学 —

株式会社エスラインギフ

岐 阜 県

代表取締役社長 堀江 繁幸

グループ企業18社を擁し、総合物流企業として成長を続ける株式会社エスライン（岐阜県羽島郡）。

その中核企業である株式会社エスラインギフは盤石の営業基盤とノウハウを武器に着実に成長を続け、

現在は運送事業を中心に、倉庫事業、情報処理事業などを幅広く全国に展開している。

事業拡大と同時に、いち早くeCanterを導入するなど環境に配慮した経営にも積極的に取り組む堀江繁幸社長に、
同社の強みや環境保全への想い、今後の展望などについて聞いた。

OUR PHILOSOPHY

株式会社 エスラインギフ

岐 阜 県

創業80余年。「和」の精神で 成長を続ける リーディングカンパニー

まずは、これまでの御社の歩みを教えてください。

当社は、創業者である山口友吉が1928（昭和3）年に、当時まだ珍しかったトラックを購入、岐阜市内に開業した「山口運送店」がルーツです。その後、1947（昭和22）年に初代山口軍治（友吉の息子）が当社の前身である「岐阜トラック運輸株式会社」を設立。社員67名・車両30台からスタート

しました。その後、二代目山口軍治社長の新鋭な発想力と行動力で飛躍的に発展し、1980（昭和55）年には名古屋証券取引所第二部へ株式上場も果たしました。

2006（平成18）年には、さらなる企業価値の向上を目指して、前株式会社エスラインギフは、エスライングループの各事業会社を統括管理する持株会社として商号を「株式会社エスライン」に変更し、純粋持株会社体制へと移行いたしました。その際に完全子会社として新たに設立されたのが、今の株式会社エスラインギフであり、グループの中核企業として、成長を続けています。私は1985（昭和60）年に前エスラインギフに入社。以来、一貫して営業畑を歩み、各地の支店長や取締役を経て、2020年6月にエスラインギフの社長に就任しました。現在は自分自身が長年物流の現場で実感してきた、当社の社是でもある「和」の大切さを社員と共有しながら、さらなる事業拡大と企業価値向上に取り組んでいます。

グループの総合力を生かした 幅広いニーズへの対応

現在の業務内容と御社の強みについて教えてください。

現在は全国4本部（東日本・中部・西日本・家電物流）、47の拠点にて主に運送事業、倉

庫業などを展開、企業様の商業貨物の輸送、物流システムの企画・構築・運営から、個人様への配送・引越・ギフト・家電工事まで、運送に関わる幅広いニーズにきめ細かく対応しています。当社の強みは、グループ企業18社の総合力を生かして、運送に関わるあらゆる工程のニーズに対応できることです。たとえば、海外からの荷物を国内に配送する業務では、通関手続き、デバンニングや検品、保管や加工、配送先での設置などをトータルでご提案し、お客様の物流効率化をあらゆる角度からサポートしています。

また、社員の結束力の強さも、当社の強みの一つです。社員同士が社是「和」の精神に基づいて、お互いを理解・信頼しあえる関係を育んでいるからこそ、発店・着店間の連携、グループ内の企業間の連携をスムーズに行うことができ、結果として、多様化するお客様のニーズに迅速・親切・確実に対応することができています。



eCanter導入が 社員の意識改革のきっかけに

2019年にeCanterを導入されました。どのような問題意識があったのでしょうか？また、導入の効果についても教えてください。

地球環境に配慮した経営を行うことは、企業として当然果たすべき責任の一つです。エスライングループでも、環境に優しく、社員の健康にも配慮した持続可能な運送を目指して、2016年に独自の環境指針を策定し、全車両へのデジタルタコグラフの設置やリサイクル可能な資材の利用など、様々な環境保全活動にも力を入れて

きました。そんな私たちにとって、二酸化炭素を含む排気ガスを一切排出しないeCanterは、まさに理想的な車両です。三菱ふそうさんからの提案を受けて、2019年にエスライングループとして5台を導入したところ、中部地方初の導入だったこともあって、お客様のみなさん、地域の皆様からも注目していただき、当社の環境への取り組みを周知できる貴重な機会となりました。

2022年1月には、首都圏での近距離ルート配送にeCanterを3台追加導入しました。担当ドライバーからは「加速が非常にスムーズで運転がしやすい」「音が静かで振動も少ないので、疲れにくい」といった声が寄せられており、環境負荷の軽減のみならず、社員の健康や安全性向上の効果にも手ごたえを感じています。また、eCanterの乗務がきっかけで、ドライバー自身の環境への意識が高まり、アイドリング抑制、ゴミ分別の徹底といった行動の変化に繋がっていることも、eCanter導入で得られた大きなメリットの一つです。

もちろん、お客様からの評価も上々です。

東京都杉並区にある「しまむら」宮前店にeCanterで納品。しまむら様も企業イメージ向上に期待しeCanterでの配送を依頼した。



お客様にとって価値ある 企業であり続けるために

特にお客様からは、「eCanterを配送に利用していること」がステナブルな取り組みとして社会に認知されるので、企業イメージの向上に繋がるという嬉しいお言葉をいただいております。今後は「eCanterで運んでほしい」というご要望が増えにくものと期待しています。

最後に、今後の御社の目標をお聞かせください。

現在の当社の目標は、引き続き、エスライングループの中核企業としてグループ全体の成長を牽引し、グループの総合力を高めることです。そして、その総合力を当社の事業に還元することで、お客様にとってより価値のある輸送サービスを提供で



きる企業であり続けたいと考えています。

そのためにも大切にしたいのが、常に新たな挑戦を続けることです。創業以来、エスライングループは時代のニーズに応じた新しい制度や設備をいち早く導入するなど、革新的な経営方針により、成長を続けてきました。今回、eCanterの導入により、また一つ新しい取り組みの事例を作ることができましたので、これをさらに新しい事例の創出に繋げられるよう、チャレンジを続けていきます。車両についても、引き続き随時更新をしていく予定です。今後、技術が進化して4トン、5トンのeCanterが登場したら、ぜひ導入したいですね。そして、電気トラックの普及と環境に優しい物流の実現に向けて、先陣を切っていきたいと考えています。

COMPANY DATA



株式会社エスラインギフ

代表取締役社長：堀江繁幸／創業：昭和13年3月
社員数：1,846名（3月31日時点）／保有車両台数：1308台
エスライングループの主力企業として、全国4本部、47拠点で主に運送事業、倉庫業などを積極的に展開。お客様の物流効率化をさまざまな角度からサポートしている。

日本の音 100選を行く

私たちの身のまわりには、地域で育まれたさまざまな音があります。環境省は1996年、「残したい“日本の音風景100選”」を公募し、選定しました。選ばれたのは楽器が奏でる音、自動車や鉄道などの音、鳥の鳴き声など自然から生まれる音まで多種多様の音。日本独自の、それぞれの後世に伝えたい大切な音風景を訪ねてみましょう。

※地域によっては大型トラックが通行できない場所もありますのでご注意ください。

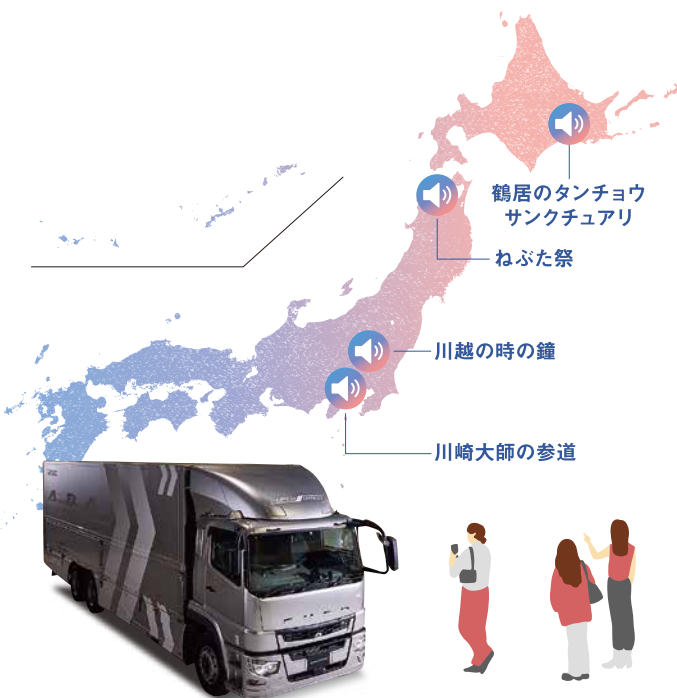
おしゃべりな鶴たち

鶴居のタンチョウ サンクチュアリ

北海道鶴居村

道道53号線

北海道の東部に位置し、釧路湿原に囲まれた鶴居村は、日本一美しい村とも言われています。タンチョウは1952(昭和27)年に特別天然記念物に指定され、鶴居村の村鳥となっています。タンチョウを愛し、給餌活動を続けてきた故・伊藤良孝さん夫妻の活動を受け継ぎ日本野鳥の会が運営するのがタンチョウサンクチュアリ。毎年11月ごろから3月ごろまで、最大で200羽前後がやってきます。タンチョウはなわばりを主張するとき、夫婦が会話をするとき、喧嘩をするとき、仲間に呼びかけるとき、警戒しているときなど、さまざまな声で鳴きます。雪原でタンチョウを観察している時に聞こえるおしゃべりは圧巻です。



TOPICS

釧路湿原はタンチョウをはじめ、多くの動植物の貴重な生息地となっています。戦後の開発により湿原面積は減少していきましたが、地元の研究者や自然保護団体などの運動により1980(昭和55)年に日本で最初のラムサール条約登録湿地となりました。



SPOT

鶴居村へは道道53号線を利用し、釧路空港から約30分、釧路駅から約60分。「サンクチュアリ」近くには駐車場もあり、手軽に観察が可能です。「サンクチュアリ」や鶴見台の給餌場以外でも11月末になると釧路周辺の畑などで見ることができます。



動の青森、静の弘前

東北の夏の風物詩 ねぶた祭

青森県

東北自動車道・青森IC、大鰐弘前IC

8月初旬に青森県各地で行われるねぶた祭は、東北地方に伝わる、眠気を追い払う行事の「眠り流し」を語源とする説が有力で、「ねむたい」が「ねぶた」へと変化したもの言われています。巨大な人形をかたどった灯籠を山車に乗せ、踊り子たちが「ラッセラー、ラッセラー」と掛け声をあげる青森ねぶたは、ほとんどが人形の形、こちらにも有名な弘前ねぶたでは、三国志などの武者の絵が描かれるのが特徴。躍動感あふれる「動の青森ねぶた」に対してゆっくりと山車を引きまわす「静の弘前ねぶた」。その違いにも注目です。



小江戸川越のシンボル

川越の時の鐘

埼玉県川越市

関越自動車道・川越IC

将軍家康や秀忠が鷹狩りで訪れ、幕政の中心人物が藩主を務めるなど徳川將軍家や江戸と関わりが深かったため、川越は「小江戸」と呼ばれます。川越のシンボルが時の鐘。約400年前に川越城主の酒井忠勝により建てられました。火災により何度か焼失しては建て替えられてきました。江戸時代から変わらず時を告げ、人々に親しまれてきた時の鐘ですが、現在のものは1893(明治26)年の川越大火災の後に再建されたもので、高さは約16メートル。現在は午前6時、正午、午後3時と6時の4回、鐘を鳴らしています。



関東の代表的な霊場

川崎大師の参道

神奈川県川崎市

首都高速神奈川1号横羽線・大師出入口

川崎大師は「厄除けのお大師さま」として親しまれています。参拝客で賑わう川崎大師の参道を歩いていると、細く延ばした飴を包丁で切っていく「とんとこ、とんとこ」という音が聞こえてきます。飴を切ることが厄を切ることに通じることから、お土産として飴が人気となり、参拝者を楽しませる飴を切る軽快な音が「日本の音100選」に選ばれました。

TOPICS

真言宗智山派の大本山である川崎大師にある八角五重塔は弘法大師1150年御遠忌を記念して1984(昭和59)年に建てられました。境内の景観との調和を考慮し、真言宗の様式にかなうよう設計されました。



世界三大潮流のひとつ

鳴門の渦潮

徳島県鳴門市 神戸淡路鳴門自動車道・鳴門北IC

鳴門市と淡路島との鳴門海峡で見ることができる渦潮は、瀬戸内海と紀伊水道の潮の干満差によって発生。春と秋の大潮の時に最大となり、轟音をたてる渦潮の大きさは世界一と言われ、時速は20kmに及ぶものもあります。渦が巻く時間は数秒から数十秒。渦はできたかと思うと消え、そして新たな渦が新たに生まれるということを繰り返します。鳴門の渦潮はイタリアのメッシーナ海峡、カナダのセイモア海峡と並んで世界三大潮流と言われています。



TOPICS

大鳴門橋の近くには「四国のみち」の起点があります。四国のみちは全長1647kmの長距離自然歩道。各地の自然や歴史に親しみながら、歩いて四国を一周することができます。各県ごとにコースが設定されていて、踏破した人には認定書が交付されます。



SPOT

本州四国連絡橋の大鳴門橋。大鳴門橋に隣接する鳴門公園は瀬戸内海国立公園の一部に指定されています。大鳴門橋の橋げたスペースには遊歩道・「渦の道」と渦潮展望室があります。鳴門公園の展望台からは渦潮をさまざまな方向から見ることができます。



反核と恒久平和を願って

広島の平和の鐘

広島県広島市 山陽自動車道・広島IC

平和の鐘は広島の平和記念公園の中にあり、核兵器と戦争のない世界の達成をめざして設置されています。「音100選」に選ばれているのは、毎年8月6日の平和記念式典で鳴らされる鐘、訪れる人のために常設されている鐘、毎朝8時15分に鳴る平和の時計塔のチャイムです。常設されている鐘は、宇宙を表現した屋根が4本の柱に支えられている人間国宝の香取正彦さんの作品。誰でも自由につくことができます。

TOPICS

平和記念公園からほど近い場所にある原爆ドームは、原爆の爆心地近くに建っていた当時の広島県産業奨励館のドーム部分だけが焼け残ったもので、原爆の悲惨さを今に伝えています。



思わず息をのむ 京の竹林

京都府京都市 名神高速道路。京都南ICなど

京都の嵯峨野や洛西と呼ばれる地域には見事な竹林が広がります。風を受けて、まるで生き物のようにさまざまな音を奏でる竹林は古都の音風景として高い評価を得ています。平安時代には貴族の別荘地だったと言われる嵐山の大河内山荘周辺にはおよそ400mにわたり、空を覆うばかりの竹林が続き、木漏れ日の中を歩きながら聞こえる、風にそよぐ竹林からの音は、はるか昔にタイムスリップさせてくれるようです。初冬には竹林の両側がライトアップされる嵐山花灯路が開催されます。そのほかにも嵯峨野の天龍寺の北側や洛西の西芳寺・地蔵院周辺や大原野神社・勝持寺周辺など思わず息をのむ「聞き所」が数多くあります。

SPOT

豊臣秀吉の妻・北政所(ねね)が秀吉の菩提を弔うために創建した京都の東山にある高台寺でも、境内の東側に竹林があり、夜間特別拝観時にはライトアップされます。ねねが晩年を過ごした地で、昔に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



高原の暗闇で聞こえる鳴き声

えびの高原の 野生鹿

宮崎県えびの市 九州自動車道・えびのIC

えびの高原は霧島連山の標高1200mに広がる高原です。世界で霧島でのみ自生するバラ科の植物・ノカイドウやキリシマを代表するミヤマキリシマ、ススキの草原が広がる自然豊かな環境の中で野生鹿が生息しています。その鳴き声が音100選に選ばれていますが、野生鹿は高原一帯で群れを作り行動します。繁殖シーズンの秋になると、夜に牡鹿が雌鹿を呼ぶ「キーンキーン」あるいは「ヒューヒュー」という高い鳴き声が高原に響き渡ります。一方で野生鹿が増加し、食害などが問題となっています。原因の一つとして指摘されているのが観光客による餌やりです。えびの高原の豊かな自然を守っていくためにも注意したいものですね。



日本の音100選とは

「残したい“日本の音風景100選”」では、「日本の音風景検討会」が選定審査。同検討会では、応募された全案件について、①公募の基本的要件との整合性、②人との接点、③音の状況、④音環境を保全しようとする取組の状況の評価するとともに、音環境に対する「人々のかかわり」、日本の音風景の「多様性」等の点を特に重視して選定審査が行われました。

TOPICS

えびの高原には大小20の火山があり、一部で立ち入り規制が行われています。えびの高原にある「えびのエコミュージアムセンター」は高原の魅力を発信すると同時に防災の拠点として、気象台から火山情報を取得し、高原内の施設などで情報を共有しています。



活躍するeCanter ドライバーに聞く

2022年3月、国内初の量産型電気小型トラック「eCanter」を導入した株式会社浜庄運輸（金沢市）。北陸3県初の電気トラック導入だったこともあり、大きな注目を集めました。今回は同社でeCanterのドライバーを務める中川このみさんに、乗り心地や周囲からの反応を伺いました。



中川このみさん（20）
大型トラックドライバーの父に憧れ、高校卒業後、浜庄運輸に入社。2022年3月、同社初のeCanterドライバーに抜擢され、現在は金沢市を中心にルート配送を担当。

パワフルなのに、
驚くほど静かで乗り心地も抜群

最初にeCanter乗務の話をしていただいたときは、最先端の電気トラックを運転できることにワクワクする半面、電気自動車に乗ったことすらなかったので、自分にできるかな？という不安も少しありました。でも、実際に乗ってみると、拍子抜けするほど運転しやすく、すぐに慣れることができました。実際に運転してみても驚いたのは、とにかくエンジン音が静かなこと。運転中も周囲の車の音や人の話し声がよく聞こえるので、より安全に配慮した運転ができるようになりました。



また、アクセルの反応がすごく良くて、強く踏み込まなくてもスムーズに発進・加速ができるので、運転が楽ですね。思ったより振動も少ないですし、シートに弾力があつて座り心地も良く、以前より疲れにくくなった気がします。しっかりと後方確認ができるバックモニターや、指でタップするだけでカーナビやオーディオが操作できる液晶ディスプレイ、車線をはみ出したら警報が鳴る「車線逸脱警報装置」など、キャビン内の設備や機能が充実しているところも気に入っています。



P R E S I D E N T

eCanter導入の理由



左)株式会社浜庄運輸
代表取締役社長
忝村一生 氏
右)同 取締役業務部長
川島秀樹 氏

導入の理由を浜庄運輸の忝村社長と川島取締役问到。『環境問題が深刻化する中、物流企業として社会的責任を果たし、健全な経営を継続するために、省エネルギー・省資源化に積極的に取り組んできました。車両についても、今後は物流業界で電気トラックの導入が進むだろうと考えていましたので、eCanterの提案を受けたのを機に、『地域で最初に導入して、突破口を開く役割を果たそう』と思い、導入を決めました』(忝村社長)。『電気トラックについては一部に航続距離の短さを懸念する声もありますが、当社の場合は、三菱ふそうさんから提案のあった近距離ルートで運用しているので、まったく問題ありません。北陸3県初の電気トラック導入事例としてマスコミに取り上げられ、地域の皆さんに当社の環境問題に対する姿勢を知っていただくことができ、結果として企業イメージの向上に繋がられたことも、eCanter導入の大きな収穫でした』(川島取締役)。

お昼休みの1時間で充電完了！

現在担当しているのは、三菱ふそうさんの自動車部品のルート配送です。午前中にeCanterにその日の配送分を積み込んで、主に金沢市やその周辺地域のお得意様のもとに運び、お昼にいったん三菱ふそう金沢支店に戻ってeCanterを充電します。支店内に設置されている専用の急速充電設備を使えば、約1時間で充電が完了。お昼休みを取っている間に充電ができるので、とても助かっています。充電後は午後の配送に出かけ、終わり次第支店に戻ってくるのが基本的なルーティンです。1日

に10か所以上を回ることも珍しくありませんが、100%まで充電しておけば最大100kmまで走れますし、あらかじめ100km以内で回れるように考えたルートで配送しているので、充電が切れそうになつて困ったことは1度もないですね。それに、メーターや液晶ディスプレイに残りの充電量や航続距離が表示されていて、『まだ、こんなに残っているんだな』と一目で確認できるので、『あとどのくらい走れるんだろう?』とハラハラすることはありません。私自身、eCanterを運転するようになる前は『電気トラックは充電が心配だな』と思っていましたが、今は特に不安もなく、毎日快適に走っています！

eCanterが お客様との会話のきっかけに



eCanterのドライバーになって良かったことは、お客様や地域の皆さんに話しかけてもらう機会が増えたことです。電気トラックを初めて見たという方が多くて、『すごいね、どうやって充電するの?』、『どんな乗り心地?』と質問されることもありますし、『排気ガスが出ないってすごいね』『最先端のトラックだね』と褒めていただいたり、他のドライバーさんに『自分も運転してみたい』と言われたりすることもあります。私の運転するeCanterが走っているのを見て、たくさんの人に電気トラックのことを知ってもらえたら嬉しいですし、これからこの地域で電気トラック

が増えていくきっかけになればいいなと思っています。

浜庄運輸では、ちょうどeCanterを導入したのと同じ時期に本社の建物の屋根に太陽光パネルを設置して、太陽光発電を始めました。まだ始まったばかりで、どのくらい発電できるのかわかりませんが、社内では『将来、太陽光発電した電気でeCanterを充電できたらいいね』と話しているところです。

ドライバーの一人として期待しているのは、今後、eCanterがもっと長い距離を走れるようになること。今は最大で100kmですが、これから技術が進めば、150km、200kmと、だんだん航続距離が伸びていくのでは?と楽しみにしています。いつか私もeCanterで中・長距離を運転できるように、ドライバーとしてもつと経験を積み、腕を磨いていきたいと思っています。



株式会社浜庄運輸

昭和46年創業。北陸3県を中心にインテリアや家電、通販商品の共同配送、宅配、引越などを手掛ける。保有車両80台のうち約半数が三菱ふそう車両。
[住所]石川県金沢市湊1丁目1番地4



FUSOブランド 誕生から90年

—— 日本と世界の輸送を支えて ——

三菱ふそうの「FUSO」ブランドが2022年5月、誕生から90周年を迎えた。日本と世界の輸送を支えてきたFUSOブランドだが、昨年から「Future Together」の新ブランドスローガンを掲げ、お客様とともに安全でサステナブルな輸送ビジネスという未来を目指している。FUSOブランドの90年を振り返ってみよう。

「ふそう」の名前の由来は 社内公募から

1932(昭和7)年5月に当時の三菱造船株式会社・神戸造船所で三菱初代のガソリンバス「B46型乗合自動車」が誕生。第1号車が鉄道省に納入されたことを記念して、社内で愛称が募集され、採用されたのが同造船所の技師が提案した「ふそう」だった。「ふそう(扶桑)」は一般にはハイビスカスとして知られる常緑樹だが、中国では「日の出るところにある」と伝えられる大きな神木」とされてきたもので、古来より、日本の異称でもあった。

FUSOは、1936(昭和11)年には、わが国初のディーゼル2トントラックの試作車を製作したほか、トラック・バスの

パワーユニットであるディーゼルエンジンを次々と新発売し、国内のディーゼルエンジンの発展に大きく寄与した。第二次大戦後の混乱期、1946(昭和21)年には戦後の国産トラック・バスの第1号を発売し、日本復興の原動力となった。

ふそうの第1号車
B46型乗合自動車



80 — 1970 — 1960 — 1950 — 1940 — 1930

1967年

我が国最大
12トン・後2軸
キャブオーバーラック
T951型発売



1947年

MB46型
電気バス生産

1959年

日本初の大型
キャブオーバーラック
T380型8トン積生産



1935年

わが国初の
ディーゼルバス
BD46型

1936年

わが国初の市販
ディーゼル2トントラック
TD35型試作車



1932年

ガソリン大型バス
「B46型乗合自動車」が誕生。
FUSOブランドの始まり。

1946年

B1型バス生産
戦後の国産第1号



1963年

キャンター誕生



1973年

大型トラック
Fシリーズ発売



未知の領域へ向かう FUSOブランドの先駆者精神

FUSOは、1960年代の高速道路網の整備にあわせて、大量・高速時代にふさわしい高出力エンジン搭載車に対応していく。1963(昭和38)年には小型トラックの分野に進出し、キャンターが登場した。

2度のオイルショックを経て低成長、省エネ時代となると、1983(昭和58)年、新技術を駆使した大型トラック「ザ・グレート」を、翌年には中型トラック「ファイター」を発売するなど多様なニーズに対応した。景気が過熱したバブル期を過ぎると世界の最重要テーマとして環境問題がより強く意識されるようになってきた。三菱ふそうでは、クリーンディーゼルなどで地球温暖化防止への取り組みを進めた。未知の領域へ向かうFUSOブランドの先駆者精神は変わることなく、ユーザーの皆さまとともに安全かつサステナブルな輸送ビジネスの未来を目指していく。



2022 — 2020 — 2010 — 2000 — 1990 — 19

2022年5月
FUSOブランド
誕生から90年



2020年
キャンター
新型モデルを発売

FUSOの挑戦は続く

三菱ふそうは2022年3月、eCanterの次世代モデルの試作車を公開した。車両ラインアップを拡充してより細かな車両用途に対応し、航続距離や安全装備等の性能をさらに改良した大規模量産モデルとして発売を計画している。三菱ふそうでは、2039年までに日本国内へ導入する全ての新型車両を電動化するビジョンを掲げており、FUSOブランドの挑戦は今後も続いていく。



2017年
国内初の量産型電気
小型トラックeCanter発売

2012年
商用車として初、ハイブリッド用
モーター内蔵デュアルクラッチ式
トランスミッションが「2013年次RJC
カーオブザイヤー特別賞」を受賞



ハイブリッド用モーター
内蔵デュアルクラッチ
式トランスミッション

1977年
大型低床トラック
FS119S発売

1983年
大型トラックを
フルモデルチェンジ
“ザ・グレート”と命名



1996年
大型トラック
フルモデルチェンジ
“スーパーグレート”と命名



1984年
新中型トラック
“ファイター”発売



様々な課題を解決する「物流DX」 問われる経営者の覚悟と実行力

テクノロジーにより産業構造を変化させ、人々の生活をより良い方向に変化させるDX（デジタルトランスフォーメーション）はさまざまな業種や分野で進んでいます。物流業界でもさまざまな課題を解決する手段として「物流DX」が話題になることが多くなりました。ではDXや物流DXはどの程度浸透しているのでしょうか。

日本企業の取り組みは進んでいるが

株式会社電通デジタルが2020年に行った調査では、日本企業の74%がDXに取り組んでいると回答しています。一方で、物流DXは、対応が遅れているとの指摘があります。

物流業界の代表的な課題の一つが人手不足です。

厚生労働省や国土交通省の調査による

と、全産業との比較では、労働時間は2割以上長く、年間の賃金は1〜2割低くなっています。顕著な人手不足の背景にはこうした環境があるとされ、さらにトラックドライバーの平均年齢の高齢化は進んでいるため人手不足はより深刻になる恐れがあります。

それでは人手不足の問題の解決を例にとつてDXの活用法を見てみましょう。ドライバー不足を直接に解決するものでは

SUCCESS STORIES

DXの成功事例をチェック

経済産業省は2020年から、東京証券取引所と共同でデジタル技術を前提として、ビジネスモデル等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげていく「デジタルトランスフォーメーション(DX)」に取り組む企業を、「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)」として選定しています。2021年に選ばれたのは「DX銘柄2021」選定企業28社と「DX注目企業」20社。同省では、この選定を企業モデルの波及と、経営者の意識改革を促すことを目的とするとしています。成功事例をチェックしてみたいかがでしょう。



経済産業省の「DX銘柄2021」「DX注目企業2021」選定企業一覧はこちら



ありませんが、物流業界の業務改善につながる可能性があるという事例です。

DXの活用で課題は解決するか？

物流企業にとってドライバーを含めた勤務状況の管理は大切なポイントですが、従業員のシフト作りは、それぞれのキャリアやスキルも考慮する必要があります。その作業は複雑で担当する部門にとつて、大きな負担となるものでした。

その解決策としてAI（人工知能）が自動でシフトを作成するサービスが登場しています。あるIT企業が提供するものでは、それぞれの従業員がスマートフォンのカレンダーから希望シフトをタップ、担当者は自動作成ボタンを押すだけで諸条件が考慮されたシフトが作成されるというもの。現場での無駄も省かれ、業務の効率化が期待されます。

DXで大切なことはこうしたサービス

物流DXをサポートする三菱ふそう

物流DXに欠かせない車両の稼働状況の見える化や配送ルート最適化の取り組みも進んでいます。三菱ふそうが提供しているトラックコネクは、車両の稼働状況を把握できる「車両管理」機能や、事前に登録された特定のエリアに出入りした車両の「エリア管理機能」などが業務の効率化をサポートしています。また、同社が取り扱う米Wise Systems社が開発した配送計画システム「ワイズ・システムズ」はAI・機械学習を駆使して最適な配送ルートを計画することで、配送ニーズの増大やドライバー不足、CO2削減に対応し、輸送効率の向上をサポートするソリューションです。



をつぎはぎで導入するのではなく、経営層がデジタル投資への理解を深め、ビジョンや目標を明確にすることが前提となります。さまざまな経営課題を解決するためには避けて通れない物流DX。経営者には大きな覚悟と実行力が必要となります。

大型トラックINOMAT-II搭載車「点検整備」の 確実な実施のお願い

エアドライヤー、オイルミストセパレーター及びクラッチアクチュエーターの定期点検、交換整備を適切な時期に行わずに使用を続けた場合、エア配管内へのオイル浸入や部品の経年劣化によるエア漏れに起因した誤作動を起こす恐れがあります。エアラインの定期点検や定期交換部品の交換インターバル厳守に細心の注意をお願いします。点検整備は、車両の性能を最大限に発揮して安全に運行をする上で非常に大切なことです。点検整備を怠ると、車両の性能を発揮できないだけでなく、重大な事故に至るおそれがありますので、確実な点検整備をお願いします。

1 対象車種

- ①大型トラックスーパーグレート
07年モデル～12年モデルINOMAT-II 搭載車
- ②大型トラックスーパーグレートV
14年モデル～16年モデルINOMAT-II 搭載車

※大型トラックスーパーグレート17年モデル以降のShiftPilot 搭載車は対象外です。



2 エアシステムの部品

1年 交換

エアドライヤーの乾燥剤、フィルターの交換/
オイルミストセパレーターのフィルターの交換※

部品の役割

オイルミストセパレーターは圧縮エアに含まれるオイルミストを除去します。エアドライヤー内の乾燥剤は圧縮エアの水分を除去し、フィルターはオイルミストを除去します。

交換理由

乾燥剤やフィルターは使用し続けると劣化により、各エアラインに水分やオイルが浸入し、各エアライン機器の作動不良による路上故障に繋がるおそれがあります。

【車種別の交換時期】

大型※ 1年または10万km

※オイルミストセパレーターは搭載車のみ

使い続けると……



各エアライン機器に
作動不良を発生させる
おそれがあります。

5年 交換

クラッチアクチュエーターの交換

部品の役割

車両エアタンクからの圧縮空気により、クラッチの断接操作を行います。

交換理由

適切な時期にクラッチアクチュエーターの定期交換を行わなかった場合、部品劣化によるエア漏れでクラッチの作動不良による路上故障に繋がるおそれがあります。



【車種別の交換時期】

大型 5年

※INOMAT-II車のみ

使い続けると……

クラッチの作動不良を発生させる
おそれがあります。

3 点検整備について

お客様のお車をいつまでも安全で快適にご使用いただくために車載しているメンテナンスノートに基づいた、以下の点検整備を確実に実施されますようお願いいたします。

- ・エアドライヤーの定期点検(3カ月毎)
- ・エアドライヤーの乾燥剤及びフィルター類並びにゴム及びパッキン類交換(1年または10万km毎)
- ・オイルミストセパレーターのフィルタ類並びにゴム及びパッキン類交換(1年または10万km毎)
- ・クラッチアクチュエーターの定期交換(5年毎)

詳細はメンテナンスノート、取扱説明書、整備解説書をご参照ください。

点検・整備についてご不明点などがございましたら、お近くの三菱ふそうサービス工場にお問い合わせください。



eCanter
が行く!

開通して10年 東京ゲートブリッジを eCanterが疾走



東京湾の中央防波堤外側の埋め立て地と江東区若洲を結ぶ全長2618mの東京ゲートブリッジ。東京湾の機能強化などを目的に作られた海上橋ですが、今年で開通して10年となりました。恐竜が向かい合ったように見えることから「恐竜橋」とも呼ばれています。



国内初の量産型小型電気トラック・eCanterは、CO₂や汚染物質を排出しないゼロ・エミッション輸送を可能にし、電気による異次元の走行性能や低振動によるドライバーの負担軽減などが評価され、普及が進んでいます。都心での輸送に実力を発揮するeCanterですが、今回は新名所として人気を集める東京ゲートブリッジを走りました。

東京の新しいシンボル ユニークなデザインの秘密は

東京ゲートブリッジのユニークなデザインの理由はその立地にあります。羽田空港に近接しているため橋の高さは98.1m以下という高さ制限があり、東京湾を大型船舶が航行するために546mの高さを確保する必要がありました。さらに地盤も軟弱だったために吊り橋ではなく複数の三角形による骨組構造であるトラス桁と、箱形の断面をもつ桁を並べて架設した箱桁が一体化した、今までにない構造のトラス橋が誕生したのです。使用された鋼材の重量は3万6000トンで、東京スカイツリーの建設で使われた鋼材の量とほぼ同じだと言われています。

東京湾の玄関口にふさわしい個性豊かで近代的なデザインの橋は東京湾クルーズや水上バス、そして東京湾を航行するフェリー、東京湾アクアライン上にある海はたるパーキングエリアからその姿を見ることができます。

近代的な景観が eCanterは良く似合う

東京ゲートブリッジのある東京湾の臨海部にはショッピングから倉庫街まで、さまざまな機能が集積しています。また、東京スカイツリーや富士山も見ることができ、夜には毎日ライトアップが行われるなど都心の新たな観光スポットとなっています。

こうした場所でその力をいかんなく発揮するのがeCanterです。整備の進む臨海部を走るeCanterは、騒音がなくその環境性能も高い評価を受けています。独創的なデザインが人々を魅了する東京ゲートブリッジにeCanterは良く似合います。



季節性や稼働率を配慮した 新たな車両導入、管理とは？

トラックの稼働状況は季節や天候の影響を受けてしまうため、必ずしも一定ではありません。従来のリースの場合、稼働率が低い月も、定額のリース料を支払わなくてはなりません。トラックの稼働状況に連動した車両管理ができる方法はないだろうか考える経営者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そうした課題の解決策として「FUSOマイレージリース」を活用している有限会社長倉ブロック土木 専務取締役の長倉 翼氏にお話を伺いました。

FUSOマイレージリースで 効率的な車両管理を目指す

有限会社長倉ブロック土木様は、昭和42年創業し、宮崎県内で舗装、土木工事業を展開。主にブロック・石積などの基礎工事を事業としています。

— FUSOマイレージリースを
採用いただいた理由について
お聞かせください。

長倉専務:採用の決め手は、走行距離が少ない月のリース料を抑えられることです。当社は主に住宅の基礎工事を手掛けているため、梅雨など雨の多い時期は工事を休まざるを得ず車両の稼働率が下がってしまいます。また、季節に関係なく受注する仕事の内容次第で、稼働率が上下することも珍しくありません。しかしながら、従来のリースは稼働率が低い月でも毎月固定のリース料を支払わなくてはなりません。何かいい方法はないかと考えていた時に、三菱ふそうの販売店の方が紹介してくれたのが走行距離に応じてリース料が変動する「FUSOマイレージリース」でした。これなら稼働率の低い月のリース料を節約でき、その分を他に活用できますし、ビジネス環境の変動にも柔軟に対応可能なので採用を決めました。今後はFUSOマイレージリースを活用したコスト削減効果を検証しつつ、車両の用途に応じて従来のリースとFUSOマイレージリースを上手く使い分け、より効率的な車両管理を目指していきたいと考えています。



写真左から、有限会社長倉ブロック土木 代表取締役 長倉手軽氏、専務取締役 長倉翼氏

リースのメリット 車両代替サイクルの最適化が可能

— FUSOマイレージリースを今回ご契約いただく前から、ダイムラー・トラック・ファイナンシャルサービス・アジア株式会社(以下、DTFSA)のリース車両をご契約いただいておりますが、リースのどんなところにメリットを感じておられますか？

長倉専務:リースのメリットは何といっても、3～5年という最適かつ計画的なサイクルで新しい車両に入れ替えることができる点ですね。車両は保有期間が長くなればなるほど、どうしても故障リスクやメンテナンスコストが高くなってしまいますし、省エネや安全性能が時代遅れになってしまうリスクがあります。リースであればそのような心配が軽減されますし、ドライバーにも「最新の車両に乗れて気分が良い」、「新しい車両は運転しやすい」と好評で、傷つけないように丁寧に運転しよう、安全運転を心がけようというモチベーションにも繋がっています。

車両のメンテナンス料や保険料もセットでリースに含められるのもDTFSAのリースを利用するメリットですね。車両管理業務が軽減でき、管理にかかるコストも明確に把握できるので助かっています。

走行距離に応じてリース料が変動する。 三菱ふそうの「FUSOマイレージリース」

FUSOマイレージリースはアジア初の「走った距離でリース料が決まる」というコンセプトの「距離連動型リース商品」です。リース料は、毎月一定の「月額基本料金」+前月の走行距離によって変動する「変動月額リース料」で、走行距離に応じてリース料が変わるため、稼働率が低い月のリース料金を節約できます。なお、三菱ふそう独自のテレマティクスサービス「トラックコネクト」が走行距離を正確に計測し、「変動リース料」を算出するため、お客様に計算等をさせていただく必要はありません。閑散期のコスト削減、低稼働車両のリース料の見直しにつながる、これまでのリースのメリットにさらなる柔軟性を持たせたFUSOマイレージリースを、ぜひご活用ください。

FUSOマイレージリースに
関する詳しい情報はこちら

<https://mileagelease.mitsubishi-fuso.com/>



7月13日 | 1886 [明治19年]

日本標準時が制定された

1884年、アメリカのワシントンD.C.で開かれた国際子午線会議で、英国のグリニッジ天文台を通る0度の経線を経度や時刻計測のための「本初子午線」とすることが提案されました。子午線とは、地球の赤道に直角に交差するように南極と北極を結ぶ大きな円のことで、この会議から経度が15度ずつずれるごとに1時間の時差を持つ時刻が各国で使用されることになりました。それまでは、世界中の各地域で太陽の動きによってばらばらに時間が定められていました。人が長い距離を移動することがなかった時代には、人々は他の地域との時間の違いを意識する必要はありませんでした。日本でも太陽の動きに合わせて各地で時間が決められていたため、東京と北海道では約1時間の時差がありましたが、人々が生活する上での不便はありませんでした。



ところが19世紀になって鉄道が普及するようになると、円滑な運行のために、一定の地域に共通の時間である標準時が必要となったのです。標準時のおかげで国内では統一された時間に電車は出発し到着します。私たちはそのおかげで、どこにいてもスムーズに移動することができるのです。日本では兵庫県明石市を通る東経135度を日本の標準子午線とし、そこでの時間を標準時とする制度が1886(明治19)年7月13日にできました。

8月4日 | 1986 [昭和61年]

個人が提唱し始まった「橋の日」

毎年8月4日は語呂合わせから生まれた「橋の日」です。東京都に本社を置く橋梁メーカーに勤務していた湯浅俊彦氏が、郷土のシンボルである河川とそこに架かる橋を通して故郷を愛する心の高揚と河川の浄化を願い個人として提唱したもので、その原点は出身地である宮崎県延岡市で、子どものころに親しんだ台風にも耐える安賀多橋のたくましさだったそうです。

湯浅氏は1986(昭和61)年に延岡・橋の日実行委員会を設立し第1回の「橋の日」イベントを開催。翌年には宮崎市「橋の日」実行委員会の発足にも関わりました。その後は延岡市が「橋の日」発祥の地として、宮崎市は情報発信の役割を担って取り組みが続けられ、毎年8月4日には記念イベントを実施。シンボルマークやテーマソングの制定、のぼりの制作などの広報活動、「橋の日」サミットやシンポジウム開催などを通じて、「橋の日」は全国へ広がりました。



「橋の日」は記念日に対する人々の理解と関心を高めるために活動する日本記念日協会から1994(平成6)年に記念日として認定されました。そうしたことに後押しされ2015年には全国すべての都道府県で「橋の日」のイベントが実施されるようになりました。

個人の思いが、橋梁メーカーや行政機関、各団体や個人を巻き込み、全国に広がった珍しい例と言えるでしょう。

COFFEE BREAK

進む賞金の高額化と多様化 宝くじの果たす役割は

「宝くじ公式サイト」の2019年の調査によると、最近の1年間に1回以上宝くじを購入した人は推計で約4222万人、根強い人気ぶりがうかがえます。

宝くじの賞金は高額化が進んできました、1984年に発売された「ドリームジャンボ宝くじ」の1等賞金は3000万円でしたが、2022年6月3日まで発売された「ドリームジャンボ5億円」の1等賞金は3億円と約40年の間に10倍に。増えたのは賞金だけではなく、その種類も多様化しています。

1994年に日本で最初の数字選択式宝くじ「ナンバーズ」が誕生し、その後登場した「ロト6」からは当せん金が繰り越されるキャリーオーバー性が導入されました。その他にも、買ったその場で当たりがわかる「スクラッチ」や、ビンゴをモチーフにした「ビンゴ5」が登場しています。

そんな宝くじですが、売り上げの中から当せん金として支払われるのはおよそ47%。2020年を例にとると、約36%は発売元である都道府県や20の指定都市で公共事



業等に使われています。2020年に行われた事業の中には、道路、橋りょうや河川の整備事業などに活用されるものの以外に、岩手県の「平泉文化遺産ガイドランス施設整備事業」、岩手県の「語学指導を行う外国青年招致事業」、富山県の「サイクリングコース整備事業」など住みよいまちづくりに役立てられているものがあります。

また相次ぐ大災害でも復興目的の宝くじが発行されるなど、宝くじは社会に対して一定の役割を果たしています。

PRESENT

アンケートにご協力いただいた方に、
FUSOオリジナルグッズをプレゼント!



③eCanterボールペン&
ブロックメモセット **20名**

④ペーパークラフト **15名**



①ティッシュボックス **5名**

②エコバック **10名**



応募締め切り

8月31日(水) 当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。(発送は9月中旬を予定)

応募方法

プレゼントご希望の方は、下記の方法よりご応募ください。

PCから

<https://forms.gle/NLo5twhdBDRL7kLk7>

スマートフォンから



※ご記入いただきました内容は、「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ、利用させていただきます。ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいけません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バス のホームページをご覧ください。

トラックが変われば、街が変わる。

We Can Be Better.

いまを走るのに、ふさわしいトラックとは。

排気ガスのない、クリーンな走り。

騒音もなく、ひとの営みに寄りそう。

低振動で、ドライバーにもうれしい。



国内初量産型電気小型トラック

2017年の発売以来eCANTERは日本をはじめ
世界中のさまざまな輸送現場で活躍中。

eCANTER

トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ



三菱ふそう
公式アカウント



スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社

www.mitsubishi-fuso.com